

(平成 28 年度の実績評価)

総合計画体系	政策No.	2	政策名	ともに生き支えあうまちの形成	施策主管課	保健福祉部 介護福祉課
	施策No.	9	施策名	高齢者福祉の充実	施策主管課長名	村松 直樹
施策関連課名				国保年金課		

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
市内高齢者	心身共に健康な状態で暮らしていける。 また認知症や心身機能の低下により介護が必要になっても住み慣れた地域で、尊厳を保ち出来る限り自立した生活を送ることができる。
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
① 対象指標	ア 65歳以上の人口	人	見込み値		17,323	17,933	18,273	18,613	18,971	19,392	
			実績値	17,041	17,616	18,083	18,472				
	イ		見込み値								
			実績値								
	ウ		見込み値								
			実績値								
② まちづくり指標	A 健康だと思える高齢者の割合	%	目標値		未設定	46.1	47.5	47.5	47.5	49.0	
			実績値	46.1	46.1	46.1	※ 80.7	※	※		
	B 地域の人に支えられて暮らしていると感じる高齢者の割合	%	目標値		未設定	59.1	60.5	60.5	60.5	62.0	
			実績値	59.1	59.1	59.1	※ —	※	※		
	C 老後も安心して暮らせると思う市民の割合	%	目標値		40.0	37.2	37.9	38.6	39.3	40.0	
			実績値	36.7	36.8	41.2	42.3				
	D 介護予防サポートリーダー数	人	目標値		未設定	210	220	230	240	250	
			実績値	206	217	243	248				
	(E) (65歳以上の介護認定率)	%	目標値						(15.0)	(14.9)	(14.9)
			実績値		(15.8)	(14.9)	(15.1)				
まちづくり指標設定の考え方		<p>A: 高齢者の介護予防の効果を示す。 【高齢者生活実態調査(65歳以上の一般対象)の『あなたの現在の健康状態はいかがですか』において、「良い」「まあまあ良い」と回答した人の割合】…中立的回答を含む5択。 ※3年毎に調査実施。平成28年度調査(高齢者の介護と暮らしに関するアンケート)で、設問が「とてもよい」「まあよい」「あまりよくない」「よくない」の4択となったため、実績値は参考とする。</p> <p>B: 地域生活に対する高齢者の安心感を示す。 【高齢者生活実態調査(65歳以上の認定者を対象)の『あなたは地域の方と支えあって暮らしていると思いますか』において、「思う」「やや思う」と回答した人の割合】 ※3年毎に調査実施。平成28年度調査(高齢者の介護と暮らしに関するアンケート)で、設問がなくなったため、実績値なし。</p> <p>C: 高齢者福祉に関する市民の安心感を示す。 【市民アンケートの『南アルプス市は、老後も安心して暮らせると思いますか』において、「思う」「まあまあ思う」と回答した人の割合】</p> <p>D: 地域での介護予防の充実度を示す。 【市が開催する介護予防サポートリーダー養成講習を終了し、介護予防サポートリーダーとして登録された人数】</p> <p>(E: 65歳以上の介護認定率を維持、あるいは減少させることで健康長寿の度合いを示す。 ……H29マネジメントシートより指標A・Bの実績値が取れなくなったため、参考として追加)</p>									
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方)		<p>A: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定 B: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定 C: 高齢者福祉施策を着実に推進することにより、5年間で約3%の増加を見込み目標値を設定 D: 地域での介護予防を推進し、5年間で50人(年間10人)の登録者増を目指し目標設定 (E: 高齢化率が上がるなか、介護予防事業を推進することにより、介護認定率の15%以下の維持を目指し目標設定)</p>									

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	39	36	32	27	26		
関連事業予算額(単位:千円)	1,736,643	1,743,251	1,036,445	1,049,174	1,083,287		
(予算額の内訳)	国庫支出金	354	597	5,044	5,130	5,215	
	県支出金	113,437	106,737	7,664	7,353	7,545	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	75,832	69,391	58,001	55,473	54,103	
	一般財源	1,547,020	1,566,526	965,736	981,218	1,016,424	

#### 4 評価結果(施策の有効性評価)

<b>① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)</b>	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	<b>※左記の理由</b> 高齢者人口が見込み値より約200人増えているため、高齢化率も若干(0.2ポイント)ではあるが、上昇し25.6%となっている。 まちづくり指標のAとBについては、今回から参考値として扱う。 Cについては、1.1ポイント上がっているが、目標設定の上昇率と大差ない。また、Dの介護予防サポートリーダーの新規養成者数も8人で、年間目標の10人を下回っている。
<b>② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較)</b>	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	<b>※左記の理由</b> まちづくり指標のCについては、この3年間で5.5ポイントと伸び、5年間目標の3%アップを上回っている。Dについても5年間目標の250人まで、あと2人であるが、実際に新規に養成した介護予防サポートリーダーの数は、50名を超えている。
<b>③ 他自治体との成果実績値の比較</b>	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	<b>※左記の理由</b> 介護予防サポーターの養成について、進んでいる自治体(中央市)は、いきいき体操やサロン活動など、目的別に養成を行い活動実績を上げている。 本市では、その他の事業として、いきいき百歳体操や介護ボランティア制度、協議体の設置状況などは、県外はもとより全国的にみても進んでいる方で、特に協議体の設置を担当している生活支援コーディネーターにおいては、県内では山梨市や大月市、県外では大阪から講師の派遣を依頼されている。
<b>④ 住民の期待する成果水準との比較</b>	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	<b>※左記の理由</b> 住民から寄せられる意見や相談では、介護予防・日常生活支援総合事業のサービス内容に対する不満は少ないが、介護サービス、予防事業として行うことが非常に難しい、高齢者の移動(通院・買い物)支援に対する要望は、多く寄せられている。 また、指標のC(老後も安心して暮らせると思うか)で、50%を下回っていることから、「同水準」とは言いにくい。

#### 5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
高齢化の伸展に伴い認知症高齢者の増加が見込まれる。	認知症になっても認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう認知症高齢者等にやさしい地域をつくるため高齢者いきいきプラン及び新オレンジプランを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症への正しい理解を深めるため認知症サポーター養成講座を小中学校や地域住民、企業を対象に実施する。</li> <li>認知症支援ネットワーク会議を立ち上げ、3年目となるが、今年度はケアパス部会とSOSネットの二つの専門部会を設置して、重点的に取り組んでいく。</li> <li>認知症初期集中支援チームによる早期診断・早期対応に向けた支援体制の充実・推進を図る。</li> <li>認知症の人やその家族、地域住民の支え合いの場として「認知症カフェ」の充実を図る。</li> </ul>
単身、老老世帯の増加に伴い生活支援を必要とする高齢者や世帯が増加する。	高齢者の在宅生活を支える為に多様な重層的な生活支援・介護予防サービスの提供体制をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援の協議体(第1層)を平成28年度に設置したので、その活動支援と第2層(小学校単位)の設置を進め、地域の資源把握や開発、ネットワークづくりを行う。</li> <li>スタートしたばかりの「介護支援ボランティア・ポイント制度」の活用を推進し、高齢者の生きがい支援を行う。</li> <li>元気な高齢者が地域のサービスとして活動できる場の確保と人材の育成をする。</li> </ul>